

【優秀賞】

【水の循環に思いを馳せる】

稲沢市立稲沢西中学校 二年 谷岡 彩音

渇水対策で豊川に「緊急導水」。新聞で目にしたのは、初めて知る言葉だった。

豊橋市や豊川市など愛知県東三河地域の農業・工業・水道を支えているのが豊川用水である。この豊川用水に水を供給する要となるのが、新城市にある「宇連ダム」と「大島ダム」だが、昨年からの少雨により、二〇二六年三月には両ダムの貯水率が危機的状况に低下、愛知県と静岡県のある天竜川水系の佐久間ダムから、水の供給「緊急導水」を受けるに至ったということだった。幸い、三月後半からまとまった雨が降ったことで緊急導水は三日で終了し、地域の皆さんにとって大事にならなかったのだとほっとした。

水は、私達が生きていく為に欠かせないものであることは分かっているが、これまであまり深く考えることなく使ってきたように思う。学校や商業施設で「節水を」「水を大切に」という標語やポスターを目にすることはあっても、水道の蛇口をひねったり、トイレのレバーを回せば当たり前のように流れてくるものだから、その水が「どこから来て、どこへ行くのか」など気にすることもなかった。

そこで今回、身近な「水」について調べてみることにした。まず、使い終わったら水がどうなるかということから始めてみた。

私の住む稲沢市には、地域の下水処理場である日光川上流浄化センターと隣接して、愛知県下水道科学館という施設がある。下水道の仕組みや役割をゲーム感覚で楽しみながら学べる施設である。家から近いこともあり、小さい頃から家族で何度も遊びに行ったことがあったが、中学生となった今、数年ぶりに改めて足を運んでみることにした。

お風呂に入る、トイレを流す、洗濯物を洗う、このようにして出た排水は、汚水管を通って下水処理場に送られる。処理場では、沈殿や、水の汚れ成分である有機物を微生物に食べさせる事により浄化する方法などを用いて、水をきれいにする。そして、きれいになった水は河川に放流される。放流された水は海に注がれ、やがて蒸発した水蒸気が上空で冷やされて雲になり、雨や雪となって降り注ぐ。その一部が再び河川に流入し、私たちの生活に欠かせない水となつて戻ってくる。

しかし、そのままでは、人間の体に有害な物質やウイルス・菌などが含まれているので、安全に使える水にする為に、浄水場が必要となる。私の住む稲沢市では、市の西側を流れる木曽川から水を集める尾張西部浄水場において、凝集や沈殿・ろ過・消毒という処理を経て地域に水が供給されている。この浄水場では一日に約十七万立方メートルの水を給水できる。五百ミリリットルのペットボトルを三億四千万本分という途方もない量の安全な水を供給してくれているのだ。

下水処理場も浄水場も、私達の生活を支えてくれる重要なライフラインであり、二十四時間三百六十五日止まるこ

とが許されない。水の安全な循環を守る為に、たくさんの方が毎日頑張ってくれていることに心から感謝したいと改めて思った。何年かぶりの下水道科学館での学びは非常に実りあるものとなった。

それにしても水の循環の難しさは、私の使った水が使った分だけ、私の住む地域に戻ってくるとは限らないことだ。使ったらもう戻らないかもしれない。だからこそ、私達一人ひとりが、水を限りある資源として大切に守っていく意識を持たなければいけない。

宇連ダムの水不足が連日報じられていた中、私と同じくらいの歳の子が「毎日節水を心がけている」と堂々とインタビュで答えていた。そうだ、私にだってできるはず。

昨夜、シャワーの湯をこまめに止めながら髪を洗ってみた。今朝、水を流しっぱなしにせず、桶に水を貯めて洗顔してみた。ほんの小さな一歩だけれど、目の前にある一滴の水を無駄にせず、大切に使う事から始めよう。